

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02699

研究課題名（和文）グローバル社会・多言語多文化社会に対応する日本の国語教育の再構築の基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research on Restructuring Japanese Language Education for a Global, Multilingual, and Multicultural Society

研究代表者

長田 友紀（OSADA, Yuki）

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号：70360956

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は国語科における非母語話者の実態や、母語話者と共に学んでいる国語科授業についての調査、さらには日本の国語教育のノウハウを多言語多文化国家ミャンマーに展開した事例の検証に基づき、母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語科のモデル授業を開発するための基礎的研究を行うことである。その結果、1. 諸外国の多言語多文化社会でどのように言語教育がなされているか基礎的な資料が収集できた。2. 特に多言語社会ミャンマー国の新旧の教科書の丁寧な分析によって日本が支援した国語科がどのような課題に突きあたったかを明らかにできた。3. 日本の国語教室における非母語話者の困難さを事例の調査によりその一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多言語・多文化状況下の国語教育は日本でも重要なテーマになりつつある。ヨーロッパでは近年の複言語主義や、アメリカでも多言語・多文化状況を踏まえた言語教育研究が進みつつあるが、日本では日本語という単一言語の社会を前提に国語教育が構築されており、この点に大きな問題があった。本研究の最終的なねらいは、日本語母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語教育の理論および指導方法を具体的に開発することを目的とするものである。非母語話者への支援だけでなく、日本語母語話者の児童生徒に対しても意味のある新しい視野に立った国語教育の理論と実践の開発を目指す点に本研究の学術的独自性や、社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study is basic research aimed at developing a model class for Japanese language instruction where native and non-native speakers learn together. It is based on a survey of the actual situation of non-native speakers in Japanese language classes, a survey of Japanese language classes taught with native speakers, and an examination of cases where Japanese language education know-how has been applied in Myanmar, a multilingual and multicultural country. The results of this research are as follows:

1. Basic data on how language education is conducted in multilingual and multicultural societies in other countries were collected. 2. Careful analysis of old and new textbooks from Myanmar revealed the challenges faced by Japanese-supported Japanese language classes. 3. A model for non-native speakers in Japanese language classrooms was developed. 4. The difficulties faced by non-native speakers in Japanese language classrooms were clarified through the survey.

研究分野：国語教育

キーワード：国語教育 多言語多文化 母語教育 ミャンマー

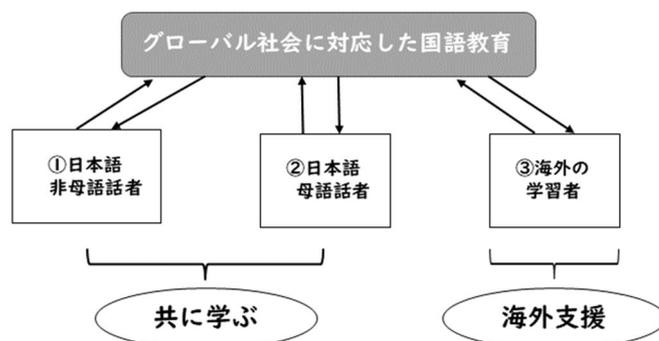
## 1. 研究開始当初の背景

多言語・多文化状況下の国語教育は日本でも重要なテーマになりつつある。最新の2021年の調査でも日本語指導が必要な児童生徒数は外国籍で47,619人、日本国籍で10,688人にのぼり2018年度調査より増加している(文部科学省, 2022)。今後さらに多言語・多文化が進むと思われる日本では、日本語指導が必要な児童生徒たちがさらに増加していくことは間違いない。そのような中、多様な文化的・言語的背景をもつ学習者たちを見据えた国語科の重要性が強く指摘されつつある(府川, 2022; 長田, 2020b; 原田, 2021など)。また日本語非母語話者も一緒に学ぶ国語科の授業実践も報告され始めた(齋藤, 2020; 仁平, 2018など)。

しかし、日本の「国語教育研究」においては、母語教育として日本語母語話者を対象に長く理論化されており、こういった子どもたちを十分に視野に収めているとはいえない。もちろん日本語非母語話者に対する研究は「日本語教育研究」の領域で進められている。だが、これまで成人を主な対象としており、学校教育での学習者に注目したとしても国語科の授業ではなく、日本語の取り出し授業などに焦点が当てられることが多かった。国語科の授業という視点から日本語非母語話者への支援を考えていく必要がある(図の )。

ただし、単に日本語非母語話者だけに焦点を当てればよいというわけではない。今後は日本においても多様な言語が社会にあふれる中で言葉を使って生きていくことが求められる。日本語母語話者の児童生徒にとっても、日本語を前提とした社会における国語教育を受ければよいというわけにはいかないだろう。国語教室に日本語非母語話者がいることは、むしろ様々な文化や言語に触れながら言語学習できる極めて重要な機会になるはずである(図の )。

また日本の国語教育の理念や指導方法はミャンマー国へ輸出されており、他の途上国からも同様の支援要請が来ているようである。こういった多言語多文化国家への支援を効果的に行うためにも、日本における母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語教室の理念や指導方法の開発は欠かせない状況である(図の )。



## 2. 研究の目的

ヨーロッパでは近年の複言語主義や、アメリカでも多言語・多文化状況を踏まえた言語教育研究が進みつつある。しかし、日本では日本語という単一言語の社会を前提に国語教育が構築されており、この点に最大の問題がある。そこで本研究の目的は、国語科における非母語話者の実態や、母語話者と共に学んでいる国語科授業についての調査、さらには日本の国語教育のノウハウを多言語多文化国家ミャンマーに展開した事例の検証などに基づき、母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語科のモデル授業を開発するための基礎的研究を行うことである。

これは日本語母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語教育の理論および指導方法を具体的に開発することが最終的なねらいとなる。どちらかにとってのメリットではなく、共にメリットがあるという点こそが重要である。そのために基礎的な文献研究と同時に、学校や国語科における非母語話者の実態調査(図の )や、母語話者と共に学んでいる国語科授業についての調査(図の )にもとづく理論や実践の開発が必要となる。また、海外展開した事例の結果(図の )などをもとに考察していく。

本研究の意義は、非母語話者への支援だけでなく、日本語母語話者の児童生徒に対しても意味のある新しい視野に立った国語教育の理論と実践の開発を目指す点にあるといえる。

### 3. 研究の方法

本研究では以下の大きく二つの「基礎的研究（国内研究）」および「事例研究（海外研究）」という方法で進めていく。

<基礎的研究（国内研究）>

A 日本語教育の基礎研究や日本語に困難を抱えた学習者の事例検討、B 国語科の基礎研究や国語科授業のフィールドワーク、C 日本語母語話者と非母語話者が共に学ぶ国語科授業の開発を進める。

<事例研究（海外研究）>

D ミャンマーへの国語教育の展開事例の検証、E アジアの多言語教育の理論や事例検討、F 欧米の多言語教育の理論や事例検討を行う。

### 4. 研究成果

毎年度の成果は次の通りである。

<2019 年度>

現在の日本で生じている多言語・多文化に関する国語教育の問題点を明らかにするとともに、多言語・多文化状況下の諸外国からも学び、今後の国語教育のあり方を展望するための初年度の研究を実施した。

基礎研究部門の本年度の成果は次の通りである。多言語・多文化の教育に関する諸外国の基礎的研究に関する論文3本、学会発表が1本、図書が1本であった。アジアにおける教育文化事情の基礎的研究に関する学会発表が2本、図書が1本あった。先行する理数系などの他教科からの情報収集および、母語（教授用言語）との関わりの事例分析の論文が1本であった。これまでの国語教育実践や実践史研究において海外展開の視点から有効になりそうな事例の基礎的研究の論文が5本、学会発表が4本、図書が4本であった。この基礎研究部門では 多言語・多文化の教育に関する諸外国の基礎的研究、 アジアにおける教育文化事情の基礎的研究 先行する理数系などの他教科からの情報収集および、母語（教授用言語）との関わりの事例分析、 これまでの国語教育実践や実践史研究において海外展開の視点から有効になりそうな事例の基礎的研究に関して研究成果を積み上げた。

事例研究部門の本年度の成果は次の通りである。ミャンマーでの小学校国語科の指導要領、教科書、指導書などの資料を収集や考察に関する論文1本、学会発表が2本であった。国内での日本語に困難を抱えた児童生徒の事例に関する調査として、そのようなお子さんの保護者たちへの聞き取り調査を実施した。そのうえで、今後の国語科の将来展望に関して1本の学会部会でのシンポジウム登壇を行った。この事例研究部門では、実際にミャンマー国に訪問し ミャンマーでの小学校国語科の指導要領、教科書、指導書などの資料を収集し考察することができた。ただし、新型コロナウイルス蔓延の影響により ミャンマー小学校国語教員養成に関するプロジェクトが産出した指導要領、教科書、指導書などの資料収集までには至れなかった。

<2020 年度>

基礎研究部門の本年度の成果は雑誌論文3本、学会発表が3本、図書が3本であった。その内訳は次の通りである。これらの雑誌論文はこれまでの国語教育実践や実践史研究においても海外展開の視点から有効な基礎的研究であり、その中にはアメリカの学会誌で公刊されたものも含まれている。また教員養成に関して海外展開の視点から有効なものも含まれている。学会発表では、近年の電子辞書の進展を踏まえた読むことや語彙指導に関する基礎的なものが発表されている。また図書では、国語科を中心として他教科との連携などに関するものが刊行された。

事例研究部門の本年度の成果は次の通りである。雑誌論文3本、学会発表が1本であった。その内訳は次の通りである。雑誌論文では、ミャンマーでの小学校5年の国語科の指導要領、教科書、指導書などの資料を収集され考察された。また日本の大学における多言語多文化を意識した日本語教育を含んだ教員養成プログラムが分析された。さらに日本の小学校における国語と英語科の連携のための分析や考察がなされた。学会発表では、日本の国語教室にいる日本語が十分ではない児童の視点から、国語科教科書の問題点についての考察がなされた。

<2021 年度>

基礎研究部門は雑誌論文9本（うち査読付き論文4本）、学会発表は6本（うち国際学会発表1本）、書籍が11本あった。これらは日本の国語教育の現状の考察、海外との比較研究などであり多言語多文化が進みつつある現在の国語教育を再考するために大きな成果をあげたといえる。

事例研究部門は学会発表2本あった。これら（基礎研究部門の1本を含む）はいずれも全国大学国語教育学会のラウンドテーブル「グローバル社会・多言語多文化社会に対応する日本の国語教育の再構築 - 日本の国語教育の海外展開の事例を中心に - 」で発表されたものである。それにより多言語多文化社会における国語教育の現在の課題と、ミャンマーにおける日本の国語教育の海外展開の状況について学会員に広く知見や問題意識を共有することができた。また質疑応

答によって本科研の今後の展開にとって有益な示唆を得ることもできた。

<2022 年度>

基礎研究部門は雑誌論文7本(うち査読付き論文2本)、学会発表は8本、書籍が4本あった。これらは日本の国語教育の現状の考察、海外との比較研究などであり多言語多文化が進みつつある現在の国語教育を再考するために大きな成果をあげた。また国語教育の各領域の基礎的な研究成果を積み上げたことで、それらに基づく多言語多文化に対応した国語教育の考察を行うための準備が整いつつある。

ミャンマーに関する事例研究部門は雑誌論文が1本あり、ミャンマーの支援のために鳴門教育大学でどのような支援を行ったのかについて具体的に示すことができた。

多言語多文化状況下の言語教育の在り方について、幅広い視点からの考察が蓄積されつつあるといえる。ただし、ミャンマー国においての情報収集は政情不安のため渡航が出来なかった。そのため、同じく多言語多文化環境下で、しかもPISA読解力調査で常に上位のシンガポールを訪問し、基礎的な資料を収集するとともに児童や保護者へのインタビュー調査を実施した。

<2023 年度>

基礎研究部門は雑誌論文7件、学会発表は6件(うち招待講演2件、国際学会2件)、書籍が2件あった。これらは国語科と日本語教育をどう切り結ぶのかといった基礎的な研究や、旧ソビエト諸国やシンガポールといった多言語社会における言語教育の分析、さらには日本における国語科の基礎的な研究を積み重ねることができた。事例研究部門は雑誌論文が2件(うち査読付き論文1件)、図書が2件あった。ミャンマー国でJICAが支援した小学校国語科教科書がどのような点を改善し、多言語化という点でどこに困難を抱えたのかが明らかにされた。また日本の国語科における日本語非母語話者のケーススタディが行われたことで、国語科でのどのような困難さを学習者たちが抱えるのかについて具体的に描き出すことができた。

本研究期間全体での成果をまとめると次のようになる。

(1) 諸外国の多言語多文化社会でどのように言語教育がなされているか基礎的な資料が収集できた。(2) 特に多言語社会ミャンマー国の新旧の教科書の丁寧な分析によって日本が支援した国語科がどのような課題に突きあたったかを明らかにできた。(3) 日本の国語教室における非母語話者の困難さを具体的な事例の調査によってその一端を明らかにした。

以上のように、基礎研究部門および事例研究部門では多くの研究業績を初年度から生み出すことができた。特に、基礎的研究については研究業績が豊富に生み出されてきた。ただし、新型コロナウイルスやミャンマーでの政治状況の問題によって、ミャンマーに訪問し行う予定であった現地調査は実施できなかった。

今後の課題としては、基礎的研究については引き続き研究を推進していきたい。また、ミャンマーにおけるフィールドワークについては困難な状況が続くことが今後も予想される。そこで、シンガポールなど他の東南アジア諸国の多言語多文化下での国語教育などについて研究を推進していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 古谷 梨菜、長田 友紀	4. 巻 50
2. 論文標題 <資料論文>外国にルーツをもつ学習者の「国語科」での困難さ：高等学校国語科「書くこと」の授業におけるケーススタディ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 69～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15068/0002009420	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yuki OSADA	4. 巻 26（1）
2. 論文標題 Research on Overseas Expansion of Japanese-style National Language Education: Examination of Textbook Preparation Process for the First Grade of Elementary School in Myanmar by JICA's "Curriculum Revision Project for Myanmar Primary Education"	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 International Journal of Curriculum Development and Practice	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18993/jcrdaen.26.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 46（4）
2. 論文標題 教科教育学における知見活用の現状と今後の展望 行政や教員や親などに何がどう発信されているか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本教科教育学学会誌	6. 最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18993/jcrdajp.46.4_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 巻 53
2. 論文標題 教育内容決定の観点をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 文教大学国文	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 巻 5
2. 論文標題 「大村はま国語教室」への階段	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 渦中	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝田光	4. 巻 196
2. 論文標題 読者反応理論と国語科教育：教室で本を読むことの意味を考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Library & Information Science News (LISN)	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 幾田 伸司、北田 友香、山本 千奈、谷脇 諒祐	4. 巻 22
2. 論文標題 物語教材における読みのスタンスの評価基準：見物人的スタンスのルーブリック作成の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳴門教育大学授業実践研究：授業改善をめざして	6. 最初と最後の頁 55～62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/0002000272	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里	4. 巻 53
2. 論文標題 論理的文章に対する教師の作文評価パフォーマンスに関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文教大学国文	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 タスタンベコワ・クアニシ	4. 巻 67
2. 論文標題 ポスト・ソビエト諸国における言語教育政策ーロシア語をめぐるパワーポリティクス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 22-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里	4. 巻 604
2. 論文標題 「参照する力」の育成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本国語教育学会『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里、飯田和明、見目真理、綱川真人、古西はるか、牧野高明、芳田潤、渡邊瑠美子	4. 巻 9
2. 論文標題 対話的な学習活動を通して「参照する力」を育てる国語科授業の創造 「情報の扱い方」に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宇都宮大学共同教育学部『宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要』	6. 最初と最後の頁 455 - 459
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幾田 伸司、余郷 裕次、村井 万里子	4. 巻 36
2. 論文標題 ミャンマーの小学校教員養成に対する支援の実際と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文と教育	6. 最初と最後の頁 40~49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029724	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田 俊太郎、幾田 伸司	4. 巻 36
2. 論文標題 「字のない葉書」(向田邦子)教材研究のための覚え書き	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文と教育	6. 最初と最後の頁 14~26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029718	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 余郷裕次	4. 巻 609
2. 論文標題 生涯読書人を育てる「帯単元」 読書の楽しみを知らせ、読書の習慣を身につけさせる	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国語教育学会『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Katsuta	4. 巻 49
2. 論文標題 The roots of typical Japanese reading instruction: Revisiting the representative Japanese reading lessons implemented by Enosuke Ashida in 1915	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 105~111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/0002006566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝田 光	4. 巻 63
2. 論文標題 国語科における読むことの学習指導の科学的探究: 基礎研究, 臨床研究, そして科学の実行に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 読書科学	6. 最初と最後の頁 101~110
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19011/sor.63.2_101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 甲斐雄一郎・李賢珍	4. 巻 52
2. 論文標題 再録 日韓国語教材交流史研究のための基礎的研究 - 1890年代における両国教科書の比較を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文教大学国文	6. 最初と最後の頁 22-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 巻 4
2. 論文標題 「話し合える人」のもつ構えについて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 渦中	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 589
2. 論文標題 教師のカリキュラム・マネジメントと学習者の主体性にもとづくコミュニケーション活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 4 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 862
2. 論文標題 「言葉による見方・考え方」が働く「話すこと・聞くこと」の授業作り - 「ものの見方・考え方」を広げ 深め続けるために -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田 友紀、小林 祐美、矢澤 真人	4. 巻 91
2. 論文標題 小学生における辞書引き活動の調査 辞書媒体による検索行動の差異および辞書内容の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20555/kokugoka.91.0_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林 祐美、長田 友紀	4. 巻 48
2. 論文標題 資料 学習者が辞書で検索した語の調査 辞書における掲載状況の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 203-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/0002006550	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝田 光	4. 巻 91
2. 論文標題 アメリカのリテラシー教育が国語科に与える示唆 フロリダ州の幼小中等学校におけるフィールド調査を踏まえて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 45~53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20555/kokugoka.91.0_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝田光	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 「登場人物の心情を問う」授業をどう変えるかー複数の作品を比較し、新たな小説を書くことを通して育つカ-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論叢	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里	4. 巻 48
2. 論文標題 児童作文における相手意識とメタ認知 発達の観点からの検討ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幾田 伸司	4. 巻 37
2. 論文標題 小学校国語教科書における科学的説明文教材の史的考察 : 「ありの行列」を例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 119 ~ 129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029372	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幾田 伸司	4. 巻 22
2. 論文標題 国語教科書の機能から見た編修様式の変遷 デジタル教科書の編修様式に向けての展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語教育史研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OSADA, Y	4. 巻 47
2. 論文標題 The Contents of a Grade 5 National Language Textbook of Myanmar: Contents Analysis of 2020 Textbook	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/00162451	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 巻 53巻第8号
2. 論文標題 高校国語の「論理」と「文学」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀・松崎寛・澤田浩子・入山美保・吉田武男	4. 巻 45(2)
2. 論文標題 大学における教職課程と日本語教育学との連携に関する考察 筑波大学「日本語学習支援者養成修了証プログラム」の成立経緯とその課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 筑波大学教育学系論集	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Katsuta Hikaru, Sawada Eisuke	4. 巻 64
2. 論文標題 Encouraging Independent Readers: Combining Reading Workshop and Textbook Based Lessons in a Japanese High School Classroom	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Adolescent & Adult Literacy	6. 最初と最後の頁 563~573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jaal.1135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 幾田 伸司	4. 巻 36
2. 論文標題 戦後小学校国語教科書における説明的文章教材の変遷 : 昭和46年度から平成31年度を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028970	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里、山野有紀	4. 巻 7
2. 論文標題 教科横断的視点に基づく小学校教員養成カリキュラムの開発のための教科間連携研究(6) 小学校外国語活動と国語の連携授業(2)ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 437-442
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里	4. 巻 7
2. 論文標題 教員養成課程における国語表現指導 4年生を対象とした基盤教育科目「論理表現の技術」の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 455-458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 46
2. 論文標題 The Contents of a Grade 4 National Language Textbook of Myanmar:Contents Analysis of 2019 Textbook	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/00159108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 33 (通巻341)
2. 論文標題 質問することとは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 授業づくりネットワーク	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田友紀	4. 巻 55-8
2. 論文標題 生きて働くコミュニケーション能力について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝田光	4. 巻 569
2. 論文標題 『作家のように読む』論と『作文泥棒』の実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本国語教育学会『月刊 国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝田 光	4. 巻 86
2. 論文標題 読者反応理論からみた文学教育における深い学び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20555/kokugoka.86.0_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里	4. 巻 46
2. 論文標題 日英児童作文における相手意識の発達過程ーコミュニケーション方略の国際比較分析ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文科教育研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/00159110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里、山野有紀	4. 巻 6
2. 論文標題 教科横断的視点に基づく小学校教員養成カリキュラムの開発のための 教科間連携研究(4) 小学校外国語活動と国語の連携授業ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 447-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tastanbekova Kuanysh	4. 巻 4-41
2. 論文標題 Language education policy in Japan: problems of teaching Japanese as a second language and English as a foreign language	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Kazakh National Pedagogical University named after Abai Research Journal Pedagogy and Psychology	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幾田伸司・宮本浩治・金子萌・守田庸一	4. 巻 33
2. 論文標題 テキストの二重構造に着目した説明的文章教材分析の観点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語文と教育	6. 最初と最後の頁 48-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 5件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 古谷梨菜・長田友紀
2. 発表標題 日本語の力が十分ではない高校生が参加する「書くこと」の学習指導の研究 高等学校国語教科書の検討
3. 学会等名 第142回 全国大学国語教育学会千葉大会(千葉大学)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 近年の日本の学校教育の変化
3. 学会等名 シンガポール国立大学Centre for Language Studies Japanese Language Programme主催 2023年2月特別セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤森裕治、白坂洋一、香月正登、森田香緒里
2. 発表標題 「言語生活者」を育てる国語科授業－学習者中心の言葉の学びに向けて－
3. 学会等名 第85回日本国語教育学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 タスタンベコワ クアニシ
2. 発表標題 ロシアの言語教育政策と「ルースキー・ミール」の関係を研究する意義
3. 学会等名 日本比較教育学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kuanysh Tastanbekova
2. 発表標題 Use and abuse of minority language education in Central Asia: the potential for new development in a post-COVID era
3. 学会等名 The 5th Symposium of World Council of Comparative Education Societies (WCCES) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 タスタンベコワ クアニシ
2. 発表標題 中央アジア諸国の言語教育政策における母語教育権利保障の利用と濫用 カザフスタンに焦点を当てて
3. 学会等名 日本中央アジア学会2022年度年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 勝田 光、大隈彩香、森大徳、山本賢一
2. 発表標題 子どもは絵本を通して戦争をどう理解するか?: 典型的な戦争絵本と新しい戦争絵本に対する読者反応の違いに着目して
3. 学会等名 第66回日本読書学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 甲斐雄一郎
2. 発表標題 国語教育学研究を見通す 国語教育学研究、これから10年間のビジョン
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第143回千葉大会 課題研究発表(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 勝田光
2. 発表標題 国語科における読むことの学習指導の科学的探究: 基礎研究、臨床研究、そして科学の実現に向けて
3. 学会等名 第71回 人文科教育学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hikaru Katsuta
2. 発表標題 The root of Japanese reading comprehension instruction: The conventional teaching approach and its alternatives
3. 学会等名 The Reading Association of the Philippines' 7th International Literacy Cpnference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝田光
2. 発表標題 アメリカの読むことの学習指導が国語科に与える示唆：フロリダ州の幼小中等学校におけるフィールド調査を踏まえて
3. 学会等名 全国大学国語教育学会2021春期大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 タスタンベコワ クアニシ
2. 発表標題 キルギス共和国とタジキスタンの言語教育政策における母語教育保障 法規定とカリキュラムの比較
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 タスタンベコワ クアニシ
2. 発表標題 ロシアの多言語教育政策ー中央アジア諸国との比較
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 ミャンマーへの小学校国語教科書作成支援における多言語多文化への対応
3. 学会等名 第141回 全国大学国語教育学会世田谷大会（オンライン）ラウンドテーブル「グローバル社会・多言語多文化社会に対応する日本の国語教育の再構築 - 日本の国語教育の海外展開の事例を中心に - 」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 幾田伸司
2. 発表標題 ミャンマーの小学校教員養成に対する支援の実際と展望
3. 学会等名 第141回 全国大学国語教育学会世田谷大会（オンライン）ラウンドテーブル「グローバル社会・多言語多文化社会に対応する日本の国語教育の再構築 - 日本の国語教育の海外展開の事例を中心に - 」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 タスタンベコワ・クアニシ
2. 発表標題 中央アジア諸国の多言語教育政策における母語、国家語、ロシア語と外国語教育のせめぎ合いーカザフスタンとウズベキスタンの言語教育を事例としてー
3. 学会等名 第141回 全国大学国語教育学会世田谷大会（オンライン）ラウンドテーブル「グローバル社会・多言語多文化社会に対応する日本の国語教育の再構築 - 日本の国語教育の海外展開の事例を中心に - 」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長田友紀・小林祐美・矢澤真人
2. 発表標題 小学生における教材文の語句調べに関する調査 紙の辞書と電子辞書の違いによる検索行動の比較
3. 学会等名 第138回 全国大学国語教育学会2020年春期大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 国語科の本質と近年の動向 小学校教科書教材「お手紙」を事例として
3. 学会等名 多文化的背景を持つ児童生徒教育のための研究グループ 第3回リサーチグループ研究会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長田友紀・小林祐美
2. 発表標題 辞書を使った教科書教材の意味調べ活動にみる学習者のつまずきの分析-紙辞書と電子辞書の検索行動の比較から-
3. 学会等名 国際研究集会「次世代の日本研究 国際的協働研究と研究交流」(オンライン)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 幾田伸司
2. 発表標題 小学校国語科教科書における科学的説明文教材の史的考察
3. 学会等名 第72回中国四国教育学会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 日本型国語教育の海外展開に関する研究 - JICA「ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト」による小学校1年用教科書作成過程の検討 -
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 仙台大会 自由研究発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 日本の国語教育の海外展開 - ミャンマーにおけるJICAのCREATEプロジェクトから -
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 仙台大会 ラウンドテーブル「比較国語教育の新たなパラダイムを求めて」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 共生社会のための国語科の在り方
3. 学会等名 日本国語教育学会令和元年度第2回中学校部会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園部晃生・戸塚匠・小林祐美・高橋慶熙・藤田璃央・長田友紀
2. 発表標題 国語科におけるヴィジュアルリテラシーの指導 図像テキストを高校生はどう関連付けて捉えるのか
3. 学会等名 人文学教育学会 第68回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 SDGsの視点からみたミャンマーと日本の国語教育研究の架橋
3. 学会等名 秋季SDGs勉強会（筑波大学人文社会系）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長田友紀
2. 発表標題 小学生における電子辞書の使用に関する予備調査
3. 学会等名 学校における電子辞書の活用に関する研究フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 勝田光
2. 発表標題 文学教育における『深い学び』 新学習指導要領下における文学教育の方向性
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第136回 茨城大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hikaru Katsuta & Eisuke Sawada
2. 発表標題 Incorporating reading workshop into the Japanese Curriculum: How it helps students to be an independent reader.
3. 学会等名 International Literacy Association 2019 Conference, New Orleans, LA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 タスタンベコワ・クアニシ
2. 発表標題 カザフスタンとウズベキスタンにおける母語教育権利保障の比較 法規定と教育課程に焦点を当てて
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会、東京外国語大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tastanbekova Kuanysh
2. 発表標題 Past, Present, and Future of Multilingual Education Policy in Central Asia: is Mother Tongue Education still the right?
3. 学会等名 The International Academic Forum Asian Conference on Education 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田香緒里
2. 発表標題 「児童作文の国際比較研究 -相手意識とコミュニケーション方略に関する日英比較-」
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 仙台大会 ラウンドテーブル「比較国語教育の新たなパラダイムを求めて」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 甲斐雄一郎
2. 発表標題 東アジアにおける論語学習の比較がもたらす知見
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 仙台大会 ラウンドテーブル「比較国語教育の新たなパラダイムを求めて」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 長田友紀	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 233
3. 書名 「社会の多様化を踏まえたこれからの話し合い指導: 「合意へと至る対話」から「終わらない対話」へ」 藤森裕治 『これからの国語科教育はどうあるべきか』 pp.48-51	

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 233
3. 書名 「東アジア漢文学習交流のゆくえ」藤森裕治『これからの国語科教育はどうあるべきか』pp.52-55	

1. 著者名 Katsuta, H. & Sawada, E.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 Chapter 9 Creating a Community of Independent Readers in a Japanese-language Classroom. (The reading lives of teens: Research and practice)	

1. 著者名 森田香緒里	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 166
3. 書名 小学校・中学校国語科「情報の扱い方」の全学年授業モデル	

1. 著者名 長田友紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 580
3. 書名 「話すこと・聞くことの学習内容・方法に関する研究の成果と展望」全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望III』、pp.64-71	

1. 著者名 森田 香緒里	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 330
3. 書名 書くことの指導における相手意識の研究	

1. 著者名 高木まさき、幾田伸司、植西浩一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 384
3. 書名 板書で見る全単元の授業のすべて 国語 中学校2年	

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文教大学教育学部	5. 総ページ数 117
3. 書名 中国、日本 中学生が読んだ漢詩	

1. 著者名 長田友紀・山元隆春	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 新・教職実践演習 第10巻 初等国語科教育	

1. 著者名 長田友紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 「Q1-2「中学校・高等学校国語科における学習指導要領の目標はどのように変化してきたか述べなさい」 『新・教職実践演習 第16巻』(pp. 10-13)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 「文学的文章の指導法にはどのようなものがあるか」長田友紀・山元隆春編『新・教職実践演習 第10巻 初等国語科教育』(pp.48-51)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 「児童が文学的文章を読む難しさとはどういうものかを述べなさい」長田友紀・山元隆春編『新・教職実践演習 第10巻 初等国語科教育』(pp.118-121)、	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 「文学的文章を読むとはどういうことか」長田友紀・山元隆春編『新・教職実践演習 第10巻 初等国語科教育』(pp.170-173)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 「生徒が文学的文章を読む難しさとはどういうものを述べなさい」甲斐雄一郎・間瀬茂夫編著『新・教職課程演習 第16巻 中等国語科教育』(pp.124-127)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 「文学的文章を読むとはどういうことか」甲斐雄一郎・間瀬茂夫編著『新・教職課程演習 第16巻 中等国語科教育』(pp.186-189)	

1. 著者名 森田香緒里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 443
3. 書名 「根拠を明確にして書こう」『新しい国語 1 教師用指導書 研究編・上』(pp.396-415)	

1. 著者名 森田香緒里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 443
3. 書名 「根拠を吟味して書こう」『新しい国語 2 教師用指導書 研究編・上』(pp.372-393)	

1. 著者名 ロシア・ソビエト教育研究会、嶺井 明子、岩崎 正吾、澤野 由紀子、タスタンベコワ・クアニシ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 428
3. 書名 現代ロシアの教育改革	

1. 著者名 幾田伸司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 80
3. 書名 「少年の日の思い出」の授業	

1. 著者名 菊地 章、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 共同研究プロジェクト(W)研究グループ (村井万里子：第2章)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 274
3. 書名 学びを広げる教科の架け橋	

1. 著者名 日本教科内容学会編 (村井万里子：第二部5章，第三部5章，付録)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 あいり出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発	

1. 著者名 東京書籍	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 223
3. 書名 新しい国語 四下 教師用指導書 研究編 (森田香緒里「ふるさとの「食」を伝えよう」) (pp.78-91)	

1. 著者名 日本読書学会 (編集委員: 藤森裕治・秋田喜代美・長田友紀・甲斐雄一郎・上谷順三郎・荷方邦夫・福田由紀・八木雄一郎)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 読書教育の未来	

1. 著者名 長田友紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 時事通信社	5. 総ページ数 321
3. 書名 「教育開発援助」藤田晃之・佐藤博志・根津朋実・平井悠介編『最新教育キーワード 155のキーワードで押さえる教育』(pp.260-261)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 266
3. 書名 「読むことの指導方法 小説の指導」全国大学国語教育学会(編)『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』(pp.134-137)	

1. 著者名 森田香緒里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 266
3. 書名 「書くことの指導の目標と内容」全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』（pp.118-121）	

1. 著者名 長田友紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 266
3. 書名 「話すこと・聞くことの指導の目標と内容」全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』（pp.102-105）	

1. 著者名 甲斐雄一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 58
3. 書名 中国大陸、臺灣、日本 国中生讀論語（繁体字版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	甲斐 雄一郎  (KAI Yuichiro)  (70169374)	筑波大学・人間系・教授   (12102)	
研究分担者	勝田 光  (KATSUTA Hikaru)  (30792113)	筑波大学・人間系・助教   (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 香緒里  (MORITA Kaori)  (20334021)	宇都宮大学・共同教育学部・教授    (12201)	
研究分担者	T a s t a n b e k o v a K u a  (TASTANBEKOVA Kuanysh)  (30726021)	筑波大学・人間系・准教授    (12102)	
研究分担者	村井 万里子  (MURAI Mariko)  (30174262)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授    (16102)	
研究分担者	余郷 裕次  (YOGO Yuji)  (90191535)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授    (16102)	
研究分担者	幾田 伸司  (IKUTA Shinji)  (00320010)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授    (16102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関